（海外・国内）出張報告書（学生用）　　2014 年 9 月 17 日提出

氏名	黒田　誠
所属	人獣共通感染症リサーチセンター・国際疫学部門
学年	博士課程４年
出張先	カナダ・モントリオール市
出張期間	2014 年 7 月 26 日－2014 年 8 月 3 日
目的	国際微生物学会議での発表

活動内容（2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい）

7 月 27 日からの 6 日間、私はカナダのモントリオール市で開かれた国際微生物学会（IUMS）に参加してきた（写真 1）。開催地であったモントリオール市はカナダの東海岸に位置し、「北米のパリ」と称されるほどフランス文化が色濃く残っており、多くの教会、石造建築や石畳など情緒あふれる街であった。言語は英語が使えるものの、道端の標識や看板、レストランのメニューなどはフランス語で書かれたものが多く、長く住んでいればフランス語も多少読めるようになるかもしれないという気がした。市内は地下鉄やバスの路線が充実しており、一日パスを購入すれば、空港から市街地や旧市街地へと大荷物を持っていてもほとんど歩くことなく行けてしまう。今回の会場であったモントリオール国際会議場も地下鉄の駅と直結しており、非常に便利であった。この国際会議場はカラフルな外観が特徴的であり、1 つのフロアだけでウイルス学、細菌学、菌類学の 3 つの学会を同時に行うことができるほど大きな建物であった。1 フロアに全ての会場が収まっていたため、各部屋への移動は非常に楽で、どの分野の発表にも容易に参加することができた。

朝のセッションは毎日 8 時半から始まる。我々が宿泊したホテルは会場から徒歩で 15 分ほど離れたところにあったので、毎朝 8 時にホテルを出発し、会場までのルートを変えつつ、散歩を楽しむこともできた。私の発表は、最終日 5 日目の午後のフィロウイルスのセッションであったので、それまでは程よい緊張感を保ちつつ、他の研究者の発表を見て回ることができた。学会参加者はやはり開催国であったカナダからが多かったものの、様々な国から多くの研究者が集まっており、発表スタイルも派手なものから淡々と進行するもの、中にはまるでステージショーであるかのような発表もあり、発表者の性格がよく表れていると思った。午前と午後のセッションの間には、ポスターセッションが設けられており、ポスター会場は 3 つの学会のポスターが同時に収められるほどの広さであった。いざ、ポスター発表が始まると、会場は熱気に包まれ、様々な国の人々が入り乱れての活発な議論が繰り広げられていた。私の研究テ

ーマは、フィロウイルスのエントリーメカニズムについてであるが、この分野に関して口頭発表及びポスター発表含め 10 以上の演題発表があり、競争の激しさを改めて実感すると共に、重要かつ興味を集めているおもしろいテーマであることを確信した。これらのポスター発表の中に、私がこれから取り組もうとしている実験方法を行っているものがあったので、私はその発表者からその方法を教えてもらい、彼女たちの出した論文からだけでは入手できない情報も手に入れることができ、帰国したら早速試してみようと思った。ポスターのデザインについても、とにかく目立つもの、至ってシンプルなもの、情報量が多いものなど発表者の性格によって様々であった。ポスターセッションの後のランチタイムにも十分な時間が用意されていて、会場のすぐそばにある中華街、少し歩いて旧市街、または会場に直結している地下鉄に乗って少し離れたレストランなども行くことができる。我々はよく中華を食べに出かけた。普段よりもゆっくり昼食をとった後は、引き続き午後の発表を見て回った。夕方 5 時には 1 日に予定されている全ての発表が終了するが、この時期のモントリオールはサマータイムで、夜 8 時くらいまでは明るい。ゆっくり夕食をとっても安心してホテルまで歩いて帰ることができた。夕食では他の海外からの研究者とも一緒に食事をすることができ、非常に有意義な時間を過ごせた。

発表当日はやはり朝から緊張していた。私の発表は午後からであったので、午前の発表を見た後は、軽く昼食を済ませ、発表の最終チェック等をして過ごした。発表した部屋はかなり小さめであったが、小さいからかほぼ満席になってしまった。発表はうまくいったはずであるが（写真 2)、質問にちゃんと答えられたかどうかは疑わしい。質問を正確に理解し、ちゃんと答えるのは日本語でも難しいが、外国語ならなおのことである。もっと訓練が必要であると感じた。最終日の夜はディナーパーティーがあり、豪華な食事と歌とダンスを楽しんだ。翌日は街を少し観光した後（写真 3)、空港へ向かった。

今回の IUMS では、自分の研究成果の発表を含め、貴重な経験ができたと思う。これらの経験を今後の研究生活に活かし、社会に貢献できる研究者になれるようがんばりたい。このような学会に参加することができたのもリーディングプログラムの支援あってのことである。このような機会を与えてくださったことに深く感謝致します。

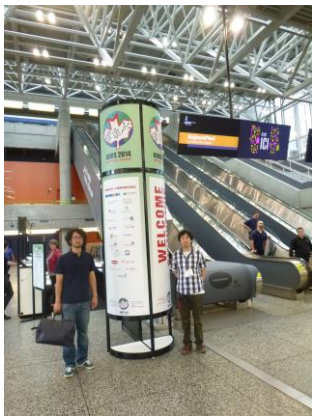

写真１　学会会場にて。

写真２　発表時の筆者。

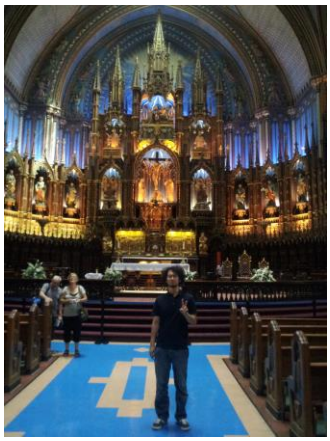

写真３　モントリオール・ノートルダム聖堂にて。

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 人獣共通感染症リサーチセンター・国際疫学部門 教授　高田　礼人	印

※１　電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545　e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp